

人の成長と環境の間には

学級通信は、生徒に配付される前に、私の元にやってきます。誤字脱字や内容の適否を校長の私が確認してから皆さんに配られます。今朝も、ある学級の通信が私の机上に置かれていました。

今年度の最後に配られる予定のその通信には、今の季節を彩る桜の花びらがデザインされ、内容もそれにふさわしい素敵なものでした。読み進めるにつれて、その学級が今年度積み上げてきた素晴らしい実績やそれを通して身に付けた力が、担任の文章から見えてきました。読み手の私には、生徒たちの成長が手に取るようにわかりました。

それは、「ダイヤモンド」を学級目標としている風組の通信です。「一年間の風組ダイヤモンドベスト5」と銘打って、年間の「輝く姿ベスト5」が書かれていました。1位から5位までに書かれていた全てに私は立ち合いましたので、その時の様子が私の脳裏に蘇ってきます。中でも、5位に掲げられていたことは、私も毎日感じていました。5位どころか、ベスト3、いや、ベスト1に入れてもおかしくない内容だと今も思います。

その5位は「一人ひとり自分から動いて整えることができた教室の環境」です。それを認める担任の言葉は次のようでした。「換気、電気、加湿器、黒板消しなど、風組の自慢は、役割と決まっている人はもちろん、三人がそれぞれ気付いた時に、自分から動くことができたことです。掃除がなくなっただけからは、床のシミや黒板のチョーク受けの粉、机や棚などの汚れを昼休みや下校の待ち時間にきれいにしました。おかげでいつも美しく、衛生的な教室で生活することができました。」

授業巡視のために、真っ先に向かうのが風組の教室です。(私は風組と光組の教室から授業巡視するのを日課としています。)生徒たちがいる時だけでなく、時には彼らの姿がない教室にも入ります。いつ行っても乱れや汚れがありません。だれもない教室に入った時には、教室の隅々までをじっくり見るのですが、どこにも乱れや汚れはありません。恐らく、教室を出る前に、環境を整えることが習慣化しているのでしょう。それだけでも彼らはこの一年で大きく成長したのだとわかり、うれしくなります。

「卵が先か鶏が先か」と同じように、「教室環境が先か生徒の成長が先か」を考えても仕方ありません。「人が環境を作り、環境が人を作る」のです。風組の生徒の頑張りが素敵な教室を作り、その素敵な教室が、彼らの生徒の成長を支えました。人の成長と環境の間には、切っても切れない関係があります。来年度も校舎の新しいさに負けない美しい環境を求めてください。(三月二十三日記)

